

プレスリリース
(報道関係者各位)

PRESS



京都府
京 丹 後 市
KYOTANGO CITY

山陰近畿自動車道早期実現促進大会

「命の道」が拓く丹後の未来シンポジウム
～ 震災 100 年から、希望の 100 年へ～

を開催

令和 8 年 9 月 30 日 発表

問 管理課 TEL:0772-69-0510

丹後震災から 100 年の節目を迎える中、山陰近畿自動車道については、未整備区間のルート決定に向けた手続きが進展し、全線整備に向けた動きが加速する重要な局面を迎えています。

第 1 部では、例年実施している、早期全線整備に向けた地元の機運を高めるための「早期実現促進大会」を開催します。第 2 部では、防災の記憶を未来へ継承するとともに、山陰近畿自動車道の整備がもたらす防災、観光、産業などへの効果について多角的に議論し、高速道路が拓く丹後地域の未来を市民や関係者と共有する「シンポジウム」を開催します。

- 【日 時】 令和 8 年 10 月 25 日（日） 午後 2 時 15 分～午後 4 時 15 分
【場 所】 京都府丹後文化会館ホール
【主 催】 丹後・地域高規格道路推進協議会（舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）
【来 賓】 衆議院議員、参議院議員、国土交通省、京都府議会議員、
京都府、京都府道路公社、京都府土地開発公社

【内 容】

第 1 部 山陰近畿自動車道早期実現促進大会

- ・丹後震災スライドショー「丹後震災 100 年と丹後の今」
- ・開会宣言、主催者挨拶
- ・来賓祝辞・紹介
- ・山陰近畿自動車道早期開通の取り組みについて
- ・大会決議
- ・要望書手交、がんばろう三唱

第 2 部 「命の道」が拓く丹後の未来シンポジウム ～ 震災 100 年から、希望の 100 年へ～

- ・基調講演
- ・パネルディスカッション
- ・閉会挨拶

「丹後・地域高規格道路推進協議会」

- ・設 立 平成 5 年 2 月 12 日
- ・役 員 等 会長：京丹後市長
副会長：舞鶴市長、宮津市長、伊根町長、与謝野町長
- ・会 員 3 市 2 町の自治体・議会議員、地域住民団体

山陰近畿自動車道早期実現促進大会（丹後震災100年記念）

「命の道」が拓く丹後の未来シンポジウム 開催要領 ～ 震災100年から、希望の100年へ～

- 1 目的 昭和2年3月7日、本市を中心とする丹後半島を北丹後地震（M7.3）が襲い、死者2,925人、家屋全壊12,584棟という甚大な被害をもたらした。今年度は発災から100年の節目を迎える。
- また、山陰近畿自動車道は、未整備区間におけるルート決定手続きが進展し、大宮峰山ICから網野ICまでの新規事業化に先行して文化財の事前調査が実施されるなど、全線整備に向けた動きが加速する局面を迎えており、地元の早期全線整備の機運を高めるための「早期実現促進大会」と、整備効果や将来像を発信する「シンポジウム」による2部構成で開催する。

第1部「山陰近畿自動車道早期実現促進大会」

未整備区間を抱え、全線整備の見通しが示されていない現状を踏まえ、持続可能で活力ある丹後地域の実現と大規模災害時の救援・救急・物流を支える重要な道路の確保に向け、国及び京都府に対し、早期かつ全線整備を強く要望し、地域全体の整備促進に向けた機運を高める。

第2部「『命の道』が拓く丹後の未来シンポジウム」

丹後震災100年の教訓を踏まえ、「命の道」としての道路ネットワークの重要性を考えるとともに、山陰近畿自動車道の整備がもたらす防災・観光・産業等の効果について多角的に議論し、高速道路が拓く丹後地域の未来を市民や関係者と共有する。

- 2 主催 丹後・地域高規格道路推進協議会（舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）
- 3 後援 京都府、京都府高速道路網整備促進協議会
- 4 日時 令和8年10月25日（日） 14：15～16：15
- 5 場所 京都府丹後文化会館ホール（京丹後市峰山町杉谷1030）
- 6 来賓 衆議院議員、参議院議員、国土交通省、京都府議会議員、京都府、京都府道路公社、京都府土地開発公社
- 7 対象 丹後・地域高規格道路推進協議会（舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）会員及び関係者約400名

8 内容

第1部 山陰近畿自動車道早期実現促進大会		
時間	次第	役職
14:15	丹後震災スライドショー「丹後震災 100 年と丹後の今」	
14:17	開会宣言	協議会副会長
14:18	主催者挨拶	協議会長（京丹後市長）
14:21	来賓祝辞	
14:42	来賓紹介	
14:44	山陰近畿自動車道早期開通の取り組み （網野～久美浜間ルート検討状況報告等）	京都府建設交通部
14:54	大会決議	協議会副会長
14:58	要望書手交	
15:02	がんばろう三唱	協議会副会長

第2部 「命の道」が拓く丹後の未来シンポジウム ～ 震災100年から、希望の100年へ～		
時間	次第	役職（案）
15:05	基調講演（案） ・ 地震など大規模災害発生時に おける道路ネットワークの重要性 ・ 道路ネットワークを活かした地域 の持続的発展	大学教授
15:25	パネルディスカッション（案） 「命の道」が拓く丹後の未来 ～震災100年から希望の100年へ～	（コーディネーター） 大学教授 （パネリスト） 近畿地方整備局 京都府 医療関係者 経済界関係者 地域・観光関係者
16:10	閉会挨拶	協議会副会長

決 議（案）

山陰近畿自動車道は、京都縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、日本海国土軸を形成する道路であり、地方創生及び国土強靱化の実現に欠かせない重要な幹線道路である。

丹後地域においては、京都縦貫自動車道の全線開通、山陰近畿自動車道の延伸により、観光客の増加や新たな企業進出など高速道路の整備による多大なストック効果が表れている。

こうした効果を更に高め、都市と地方の新たな結びつきや人の往来の円滑化を進めることで、人口規模が縮小しても経済的に成長し、社会を機能させる地方創生2・0を最大限、加速前進させていくためにも、ミッシングリンクである山陰近畿自動車道の早期全線整備が不可欠である。にもかかわらず、現状、全線整備の期的な目途が示されておらず、まちづくりの長期展望を十分に得ていく上でも隘路となっている。

こうした中、山陰近畿自動車道の整備加速化のため、一部利用者負担を甘受し令和七年度から料金徴収が始まったところであり、計画的かつ着実な整備推進と併せて先線のルートを最大限、早期に決定していく必要があるため、次の事項を強く要望する。

また、早期全線開通と併せて、今後の交通量の推移を踏まえた四車線化、大宮地域から網野方面への出入口の新設についても強くお願いする。

- 一、大宮峰山インターチェンジから府県境までの全線を令和十年代に完成するよう具体的な整備の年次計画を立てて时期的な目途を明らかにするとともに、その早期全線整備を図ること
- 一、峰山弥栄インターチェンジから府県境までの区間について、地域の意見を踏まえ、できるだけ早期にルートを確定し、全線の都市計画決定を行うこと
- 一、大宮峰山インターチェンジから網野山インターチェンジまでの区間について、令和八年度中のできるだけ早期に事業評価を完了し、令和九年度には事業化すること
- 一、大宮峰山道路及びアクセス道路の事業ができるだけ早期完成するよう体制を強化するとともに必要な予算措置を行うこと
- 一、防災や地方創生など、B/Cだけでは測れない効果も踏まえ、交通量の多寡によらない多様な観点も含めて事業の必要性を適切に評価する仕組みを構築すること
- 一、国土強靱化実施中期計画を踏まえた関係予算については、頻発する災害も踏まえ、通常予算とは別枠で必要な予算を満額確保すること
- 一、直轄権限代行や頻発する大規模自然災害等に対応するための地方整備局等の体制強化や必要となる資機材の更なる確保に取り組むこと
- 一、これら項目を踏まえ、日本列島を、強く豊かにするため、資材価格の高騰、近年の建設業における人件費の上昇等の影響を十分に踏まえ、計画的かつ長期安定的な道路整備・管理が進められるよう、新たな財源の創設等により、令和九年度道路関係予算は、所要額を満額確保すること

以上、決議とする。

令和八年十月二五日

丹後・地域高規格道路推進協議会

E9

山陰近畿自動車道

SAN-IN KINKI EXPWY

早期実現促進大会



丹後震災100年記念

「命の道」が拓く丹後の未来シンポジウム
～震災100年から希望の100年へ～

第1部 促進大会

- ・丹後震災スライドショー
- ・開会宣言
- ・主催者あいさつ
- ・来賓祝辞・紹介
- ・山陰近畿自動車道
早期開通の取り組み
- ・大会決議
- ・要望書手交
- ・がんばろう三唱

第2部 シンポジウム

- ・基調講演
- ・パネルディスカッション
- ・閉会あいさつ

日時

10/25 日

14:15～16:15

[受付]13:15～

至 (仮)大宮峰山IC

会場

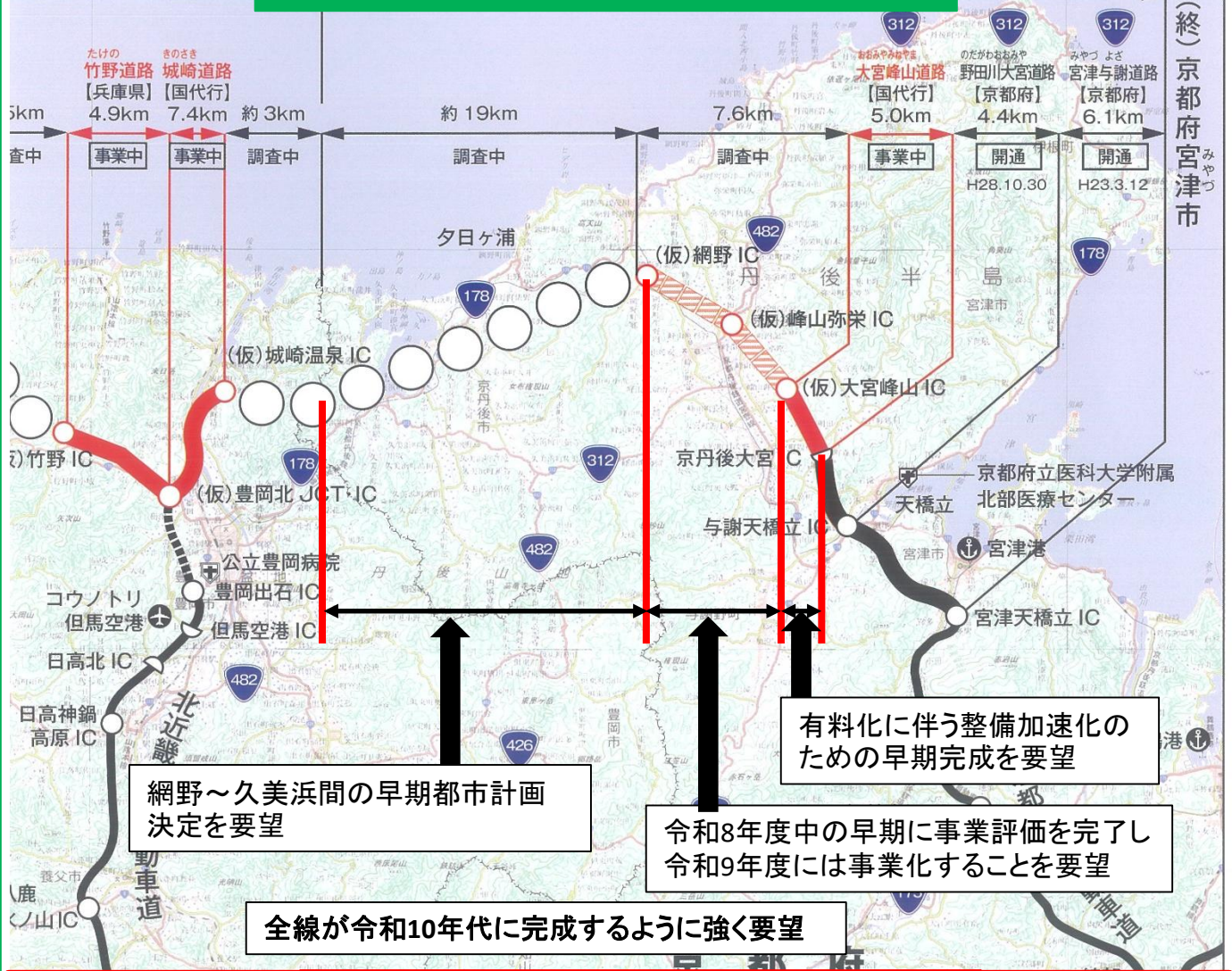
京都府丹後文化会館ホール
(京丹後市峰山町杉谷1030)

主 催：丹後・地域高規格道路推進協議会
(舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町)

後 援：京都府、京都府高速道路網整備促進協議会

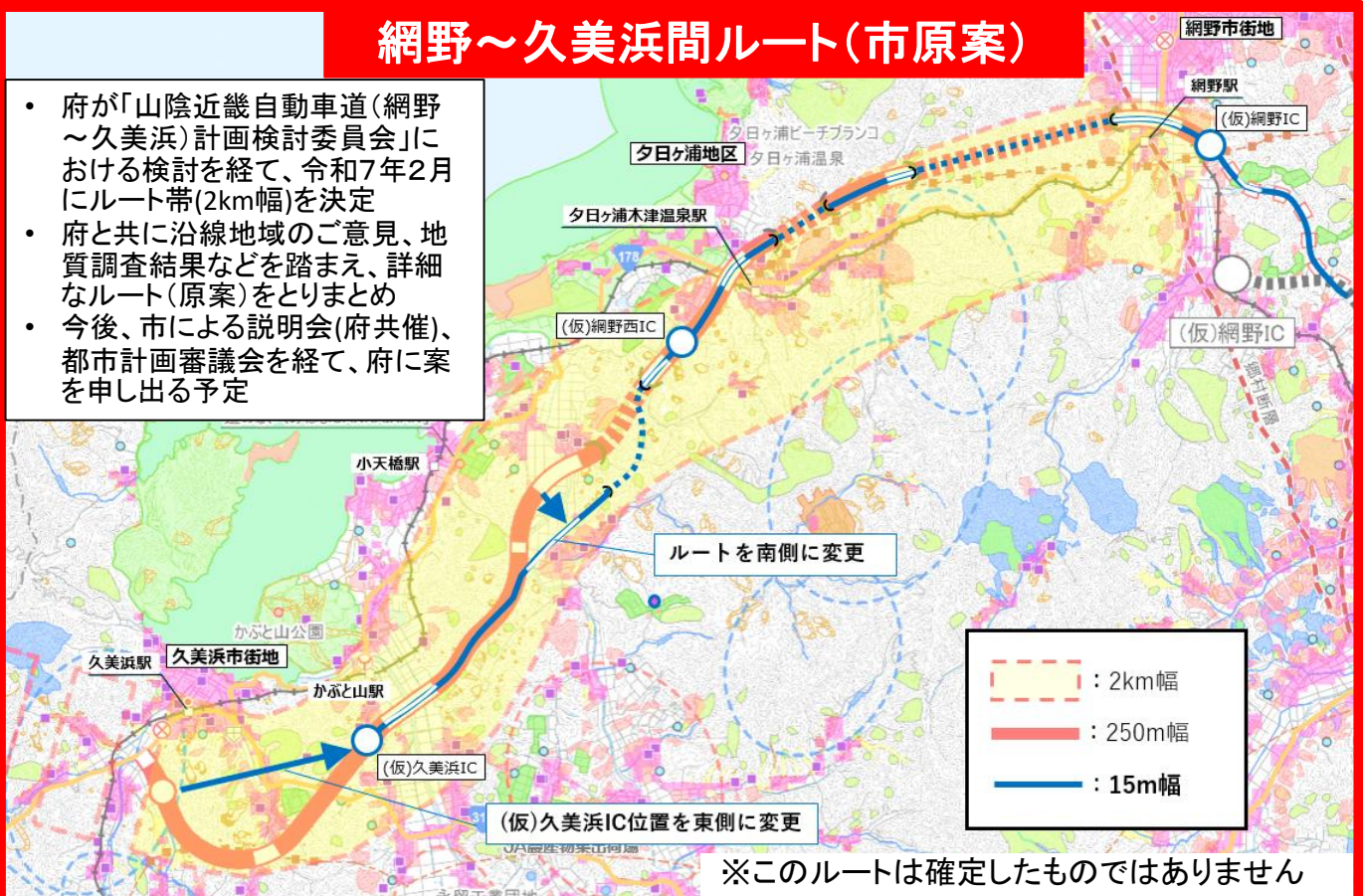
事務局：京丹後市建設部管理課 ☎0772-69-0510

山陰近畿自動車道整備状況(R8.8)



網野～久美浜間ルート(市原案)

- 府が「山陰近畿自動車道(網野～久美浜)計画検討委員会」における検討を経て、令和7年2月にルート帯(2km幅)を決定
- 府と共に沿線地域のご意見、地質調査結果などを踏まえ、詳細なルート(原案)をとりまとめ
- 今後、市による説明会(府共催)、都市計画審議会を経て、府に案を申し出る予定



※このルートは確定したものではありません